

特集

震災から10年 東日本大震災から学んだこと

甚大な被害をもたらした東日本大震災から今年の3月11日で10年が経過しました。死者1万9747名、行方不明者2556名、負傷者6242名(消防庁情報、令和3年3月9日時点)と報告されており、今もなお多くの方が避難生活を余儀なくされています。多くの命が失われたこの震災から私たちは何を学んだのでしょうか。

地震発生から3分後の午後2時49分に岩手県、宮城県、福島県の沿岸に津波警報(大津波が、北海道から九州にかけての太平洋沿岸と小笠原諸島に津波警報(津波)、津波注意報が発表されました。その後、北海道から沖縄まで太平洋側の沿岸地域を中心に津波が次々と押し寄せ、特に東北地方は甚大な被害を受けました。岩手県大船渡市では16・7層、福島県相馬市で8・9層、宮城県石巻市で7・7層の津波が来たと推定されています(気象庁「平成23年3月地震・火山月報」)。

2011年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロ付近、深さ約24キロを震源とするマグニチュード9・0の地震が発生しました。宮城県北部の栗原市で最大震度である震度7が観測され、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強、北海道から九州地方にかけて震度6弱から震度1の揺れが観測されました。

東日本大震災の死者の死因の多くが津波による溺死だったことが後に確認されており、津波による甚大な被害が東日本大震災の大きな特徴でした。押し寄せてくる津波を前に、改めて自然の脅威や人間の力の無さを多くの人が痛感しました。

写真提供：仙台市

現場では何が起きていたのか

今回の特集にあたり、実際の災害現場で救助活動や行方不明者の捜索活動に従事していた宮城県仙台市危機管理局の福来勝(注1)が語り、これまでに体験したことのないような揺れに襲われ、入口の壁に必死でしがみつきました。この時福来さんを襲った地震は震度6弱で、「建物が倒壊するのではないかとこの恐怖を感じた」と話します。揺れは3分以上続き、揺れの最中に停電。事務所の机は1層以上スライドし、書棚は固定していましたが、棚にあった書類はほとんどが床に散乱していました。緊急地震速報を受信したのとはほぼ同時に揺れが始まり、身構える余裕はありませんでした。

地震発生から津波の襲来まで

地震が収まった後、福来さんは自身の勤務先である宮城野消防署高砂分署へ戻りました。本来であれば車で30分弱の道のりですが、その時は1時間以上かかりました。仙台市にも津波警報(大津波)が発表され、周囲には自動車でも避難した方が多くいましたが、停電で信号が停止していることもあり、市内のいたるところで渋滞が発生していました。そして、携帯電話も繋がらない状態でした。

消防署の隊員や消防団員は、消防車で沿岸部の住民に対して避難広報を行いました。しかし、仙台市では東日本大震災が発生するまでの近年は津波による被害がなく、前年2月に津波警報、震災の前々日に津波注意報が発表された際も被害がなかったことから、津波に対する認識が低く、避難せず自宅に留まった方、沿岸部の自宅や家族が心配で見

に行った方が多数いました。

さまざまなもの押し流した黒い津波

津波は地震発生から約1時間後に仙台市に到達しています。気象庁の発表によると最高で7・1層の津波が到達したとき、沿岸部では黒い津波が海岸部の松林を押し流し、家や車を次々に飲み込んでいきました。福来さんの勤務地付近の河川でも、河口から5層以上流まで真っ黒い水の塊が沿岸部の住宅を押し流してきました。

仙台は平野部であるため、津波の水はすぐには引かず、流されてきた住宅や乗用車、トラック等が高さ10層以上に積み重なり、震災当日、福来さんは津波浸水区域まで進入することが

できなかったと話します。翌日に確認した沿岸部の住宅地は土台だけとなり、建物が全て流され何もなくなっていました。

自分の命は自分で守る

地震・津波発生の日から数カ月間、福来さんは水の中、瓦礫の中をかき分け、行方不明者の捜索を行いました。「何十体もの遺体を発見し、搬送するたびに助けてあげられなかった悲しみと、津波の脅威についての認識が足りなかったことへの悔しさが溢れてきた」と当時を振り返ります。

仙台市の独自の調査によると仙台市では死者1002名(震災関連連死を含む)、行方不明者27名、重症者276名(余震を含む)、軽症者2029名(余震を



宮城県仙台市危機管理局参事 福来 勝 さん

東日本大震災発生時は、宮城野消防署高砂分署消防隊の隊長として、コンビナート火災、救助活動、行方不明者の捜索活動に従事。平成23年5月から宮城野消防署警防課管理係長として、被災した消防団の組織再編等を実施。平成25年4月から危機管理室防災計画課主幹兼避難施設整備室長を務め、津波避難対策として、沿岸部に津波避難タワー等13施設を建設。青葉消防予防課長、消防局総務課長、宮城消防署長を経て、現職。

注1：緊急地震速報
地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報(関連6ページ)